

航空利用の概況

長崎空港利用者数の推移

(単位:人)

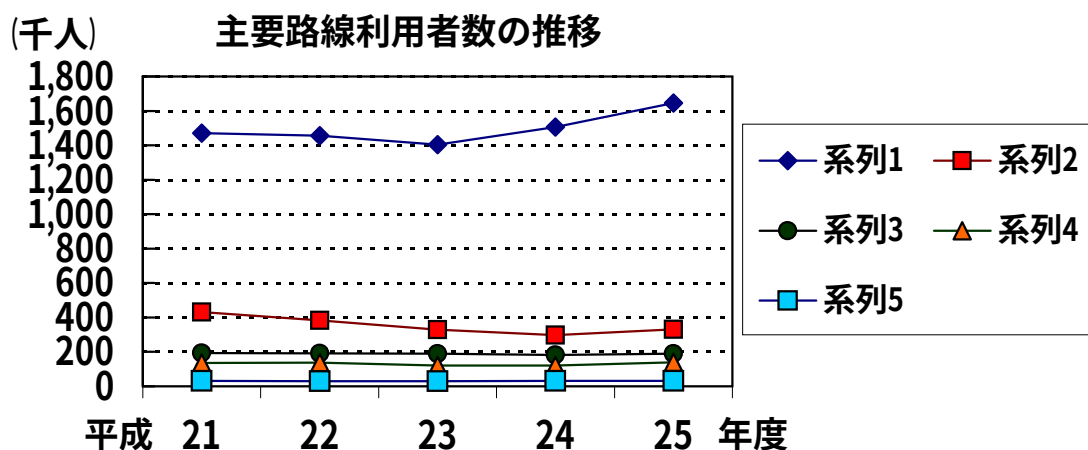
区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
国 内 線	2,246,674	2,251,282	2,392,236	2,645,607	2,769,292
国 際 (定 期) 線	36,140	29,704	15,500	29,045	32,692
チャーター便	2,342	3,181	8,228	2,373	10,058
乳 幼 児	40,454	45,945	48,287	50,056	51,012
計	2,325,610	2,330,112	2,464,251	2,727,081	2,863,054

主要路線利用者数の推移

(単位:人)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
長 崎 ～ 東 京	1,471,692	1,455,222	1,404,471	1,506,327	1,646,025
長 崎 ～ 大 阪	431,495	382,157	329,020	296,834	331,269
対 馬 ～ 福 岡	194,135	191,760	189,961	182,226	190,346
長 崎 ～ 名 古 屋	134,937	136,944	121,422	121,422	138,930
長 崎 ～ 福 江	31,437	29,571	28,834	31,452	32,260

注) 路線別利用者数に乳幼児は含まない。



本県における航空の歴史は、昭和35年4月、大村空港を国管理空港（旧第二種空港）として供用開始したことに始まり、昭和50年には世界初の海上空港「長崎空港」として生まれ変わり、昭和55年には滑走路が2,500mから3,000mに延長された。県内には長崎空港のほか、福江空港、壱岐空港、対馬空港の4空港に定期便が就航しており、全国の主要都市を始め本土と離島とを結ぶ航空網を形成している。

長崎空港は本県の空の玄関として、国内線は東京、大阪（伊丹、神戸、関西）、名古屋（中部）、沖縄など9路線38便、国際線は上海・ソウル（仁川）線の2路線週5便（H26年度のソウル線については、12月1日～3月28日まで毎日運航）となっている。利用者数は平成25年度実績で2,863千人（国内線2,769千人、国際線（チャーター便含む）43千人、乳幼児51千人）であった。

また、離島の空港は、福江空港と対馬空港は長崎と福岡、壱岐空港は長崎と結ばれており、平成25年度の利用者数は470千人（乳幼児は含まない）で、生活路線としての役割を果たしている。

※ 路線数及び便数は平成26年12月1日現在の数字。

(県新幹線・総合交通対策課)